

## 抄 録

生殖腺刺戟性<sup>1)</sup>の抽出物の注射による  
老衰せる牡鼠の辜丸の機能復活

WIESNER, B. P. (1930): On the reactivation of the senile testis of the rat by means of injections of gonadotrope hormones. *Edinburgh Med. Jour.*, April 1930, p. p. 229—236.

表題の様な研究を老衰せる牝鼠(又は廿日鼠)に於て行ひ、卵巢の機能が復活した事を報じた人は既に二三あるが、辜丸については割合に研究がない。

鼠に相當經驗のある人ならば誰でもそれと認め得る様な老衰の兆候を示してゐる齡1年9ヶ月乃至2年2ヶ月の老牡鼠を用ひて實驗した。何れの例に於ても結果に大差がないから1例のみについて述べる。先づ開腹して檢するに辜丸は小形で軟かく腹腔内に位置を占め、貯精囊、攝護腺は共に小形で不活潑な様子であつた。そこで一側の辜丸を剔出し重さをはかつてから(0.64 g)固定し、開腹部を閉じた。

2日後から1日1回、10回に亙つて人間の胎盤から得た生殖腺刺戟性の抽出物を注射した。11日目に殺して檢するに残された辜丸は1.27 gの重さを有し、前の様に軟かでなく、攝護腺、貯精囊共にかなり大きくて活潑な様子をしてゐた。

組織學的には、前にとつた辜丸は細精管内の細胞排列が混亂し、精子形成は精母細胞位でとまつてゐたし、間質中にはLEYDIG氏細胞が少なかつた。注射後のものではかなり多數の細精管に於て精子が出来て居り、間質にはLEYDIG氏細胞が多かつた。

他の例では、腦下垂體前葉の抽出物を用ひて全く同様の結果を得た。

注射の前後にとつた辜丸の差違が注射前に既に存してゐたとは考へ難いし、又注射後の復活が、一側の辜丸を剔出した爲に起つた單なる“補償”によるとは考へられぬ。一側の辜丸を剔出して、注射をしなかつた老衰鼠では何等の復活も見られなかつたから。

要するに、注射によつて辜丸及びその内分泌の支配下にある附屬腺はその機能を復活した。

(竹協潔)

1) 動雜 43: 422—424 参照(抄録者註)。

2) 卷、號の記入のない別刷から抄録した(抄録者附記)。